男鹿市教育委員会 クマ出没対応マニュアル

令和6年6月 男鹿市教育委員会

☆クマ(ツキ/ワグマ)の習性

- ・昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に最も活発に活動する。
- ・農作物や実のなる庭木などに通うことを覚えたクマは、人に見つからないよう、夜に活動 することもある。
- ・警戒心が強いため、うす暗いところに出やすい。
- ・エサを求めて移動する。行動範囲が広い。
- ・嗅覚が鋭く、においにつられてくることがある。
- ・臆病だが、脅かすと怖がって襲ってくることがある。
- ・自然界にない大きな音、音楽が苦手。

【春】 冬眠から目覚める季節

・植物の新芽や山菜、タケノコを求める

【秋】 冬眠に備えて脂肪を蓄える季節

- ・活発に活動する
- ・食べ物を探すため、夜も活動する

【■】子グマ→独り立ち、大人グマ→交尾の季節

・山の中に食べ物が少ない季節のため、 農作物などを狙って人里に出やすい

【条】冬眠の季節

・秋に十分に脂肪を蓄えることができないと 冬眠が遅れることもある

☆クマ(ツキ/ワグマ)が近くにいるサイン

- ・糞(ふん)がある。色や形は食べ物によって変わる。
- ・足跡がある。(横幅 10 センチくらい。指が 5 本。)
- ・クマ剥ぎ(スギやヒノキの根元から2mぐらいまでの樹皮が剥がさせた痕跡)がある。
- ・クマ棚 (樹上に折った枝を集めたもの。クマが枝を折りながらドングリなどを食べた跡) がある。





↑ クマの足跡(左:前足 右:後足)



← クマ棚

☆各校における平時の対応策の例

- ○保護者や関係機関と、クマが出没した際の対応を協議しておく。
 - ・児童生徒への安全指導(下欄参照)とクマ遭遇時の対処訓練。
 - ・関係機関との連絡体制(別紙参照)とパトロール等の依頼。
 - ・「こども 110番」等に有事の際の保護を依頼。
 - ・保護者への情報提供と注意喚起。
 - ・登下校時の対応→引き渡し、保護者送迎、集団下校など。
 - ・外遊びや外での体育、部活動の対応→状況に応じて室内の活動に切り替える。
- ○校地内にクマを近付けないための対策を講じる。
 - ・実のなる樹木等は早めに収穫。
 - ・朝や夕方、外での活動の際に音楽をかける等、クマが嫌がる音を出す。
 - ・クマのエサになるようなものを放置しない。

☆児童生徒への指導の例

- ○自分の身を守り、クマを寄せ付けないための方策
- ・登下校時に音の出るものを携行する。(クマ鈴、自転車のベル等)
- ・食べ物を持ち歩かない。
- ・1 人で行動せず、友達と一緒に行動する。
- ・クマが近くにいるサイン(足跡など)を見つけたら、その場を離れる。
- ○クマに出会った際の対処法
 - ・ゆっくりと後ずさりして逃げる。
 - ・カバン等の持ち物を置いて、クマが気をとられている隙に逃げる。
 - ・大声で叫ばない。(クマが興奮する)
 - ·石や棒を投げつけない。(クマが興奮する)
 - ・「こども 110 番の家」や商店、公共施設等に逃げ込み、保護してもらう。
- ○クマに襲われそうになった際の対処法
 - ・両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢をとる。(頭や顔を守る)

クマ出没時の対応チェック表

子どもの安全を最優先に!

クマの出没情報

緊急対応が必要か



- ○関係機関との情報共有
- ○パトロール等の依頼

必要

- ○学校の近く(学区内)に出没した
- ○通学路に出没した

□職員間の情報共有と対応の協議 □関係機関への連絡(警察・市教委) 登 □通学路の安全確認 ・関係機関によるパトロール(市教委が依頼) 校 ・職員による車での巡回 □保護者への連絡(緊急メールで連絡) 前 ・目撃情報があった場所等・・保護者送迎、自宅待機等対応を指示 ・登校時の注意事項 □職員間の情報共有と対応の協議 □児童生徒の安全確保と安全指導 ・児童生徒の所在確認 ・屋内への避難 ・校舎一階の施錠(状況に応じて窓の施錠も) 在 ・屋外での活動の制限(体育、休み時間、部活動) ・在校時及び下校時の注意事項を指導 校 □関係機関への連絡(警察・市教委) □通学路の安全確認 時 ・関係機関によるパトロール(市教委が依頼) ・職員による車での巡回 □保護者への連絡(緊急メールで連絡) ・集団下校、引き渡し、部活動休止などの連絡

※安全が確保されるまで上記の対応を継続する。

・ 登校時の注意事項